

シンポジウム報告

公開シンポジウム

日本におけるマングローブ林資源の保全・育成の現状と課題

日 時：2007年10月21日

会 場：東京農業大学 世田谷キャンパス

シンポジウムの趣旨

マングローブは森林を構成している植物，森林内を生活域としている動物だけではなく，陸域の生態系と水域の生態系のエコトーンとして保全・保護が検討されている．日本におけるそれらの啓蒙活動は国際マングローブ生態系協会を中心に多くの研究者が携わっている．しかし，日本のマングローブ資源の多くは絶滅を危惧され，さらに一般の人たちにその現状を知らせることが必要になってきている．そこで実際に動物や植物の保全に関わっている研究者にそれぞれの立場から現状を報告していただき，今後の課題を議論していきたい．

総合司会：馬場繁幸（琉球大、ISME）

あいさつ 檜垣宮都（東京農大）

- 1：絶滅危惧種植物の保全とマングローブ林
田中法生（国立科学博物館筑波実験植物園）
- 2：西表島浦内川のマングローブ域における貝類相の貴重性と保全の取組み
山下博由（貝類多様性研究所）
- 3：日本におけるマングローブ栽培の現状と課題
関谷秀勝（氷見市海浜植物園）



田中 法生 氏



山下 博由 氏



関谷 秀勝 氏

公開シンポジウム

国際的なマングローブ保全・再生・研究活動について

日 時：2008年11月8日

会 場：東京農業大学 世田谷キャンパス

シンポジウム開催の趣旨

1990年マングローブに関する国際 NGO/NPO として国際マングローブ生態系協会 (International Society for Mangrove Ecosystems: ISME) が設立した。これはユネスコ (UNESCO)/ 国連開発計画 (UNDP) がアジア・太平洋で実施していたマングローブに関する事業が終了するにあたって 19 カ国のアジア / 太平洋地域の国々の国内マングローブ委員会ならびにアジア / 太平洋地域のマングローブ委員会の要請を受けて行なわれた。日本国外務省、沖縄県と琉球大学が ISME の設立・誘致に積極的であったことから琉球大学農学部内に事務局がおかれた。ISME の活動は海外で行なわれていることが多いため、その活動内容は日本国内ではほとんど認識されていない。そこで、その活動内容についてマレーシアの研究者と日本の研究者から報告していただき、ISME の活動を理解すると共に今後の活動について討論していきたい。

あいさつ 檜垣宮都 (東京農大)

1 : 国際的なマングローブ保全・再生・研究活動

馬場繁幸 (琉球大・ISME)

2 : GEF/UNEP-South China Sea Project “Reversing Environmental Degradation Trends in the South China Sea and the Gulf of Thailand”

Ong Jin Eong (元・セインズマレーシア大・琉球大)

3 : ITTO/ISME Project “Guideline for the Restoration of Mangroves and other coastal Forests damaged by Tsunamis and other natural Hazards in the Asia-Pacific Regions”

Chan Hung Tack (元・マレーシア国立森林研・琉球大)

4 : 乾燥帯におけるマングローブ林の利用と維持機構に関する予察的研究

宮城豊彦 (東北学院大)・向後元彦 (アクトマン)・馬場繁幸 (琉球大)



シンポジウム討論と懇親会